

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人東の会
施設名	小町通みたけ保育園
報告者（役職）	今井 徹（理事長）
住所・連絡先	神奈川県相模原市中央区小町通 2-2-14
	☎ 042-775-5088
	E-mail mitake@image.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画）

でっかい遊戯室はぼくたちの遊び基地、壁をよじ登り、橋を渡り、山をすべる、ワクワク遊びがいっぱい、思いっきりあそんじゃえ！

○主な助成備品

クライミングウォール、技巧台（3～6歳用）、技巧台（1～3歳用）

1. 保育計画策定の目的

小町通みたけ保育園は、平成28年4月新築開園の神奈川県相模原市認可保育園です。最大の特徴は、保育室と分離した92㎡の大きな遊戯室の設置です。遊戯室は、子どもの保育を充実させる運動遊び・創作遊び・食育活動のほか、職員研修、地域交流・地域開放、防災拠点など多様な活動を目的としています。

この大きな遊戯室でないとできないような、子どもたちの成長に有効なダイナミックな運動遊びを設置したいとアイデアを何度も話し合いました。その結果、子どもたちの主体的な遊びから成長を促すことができる、クライミングウォールと技巧台を整備することにしました。この遊戯室は法人内外の園児はもちろん、広く地域の子どもたちにも開放することにしています。多くの子どもたちがこの計画によって整備された遊具によって、楽しく遊び、成長していくことを目的にしました。

2. 具体的な実施内容

①クライミングウォールと技巧台あそび

当園では、今回の遊具を「何かを教える道具」としてではなく、「子ども自らが自由にやりたいように遊ぶことができる環境」をねらいとしました。遊びの環境を整えて、子どもの主体的な遊びの中で能力の獲得を図ることとしました。

園では、主に自由な遊びの時間にこの活動を取り入れました。最初、どの年齢の子どもも特に制限を加えず「自由に使っていていいよ」と様子を見ました。すると、年齢にかかわらず、ほとんどの子どもが、何の説明がなくても自然にクライミングウォールに登ろうとし、

技巧台に取りかかります。すぐにいっぱいになり、この遊具の子どもを引き付ける力に感心しました。

次に、クライミングウォールでは、登り方の順番、横に動くこと、先生の注意を守ることなど、安全上の約束のみを子どもたちと決め活動を行ないました。技巧台も同様に行いました。クライミングウォールの横に必ず職員が1名付くなど、保育士の安全確保の役割分担を行ない、事故、ケガの防止を徹底しました。

クライミングウォールと技巧台を広い遊戯室に適切に配置することで、子どもは自らの意思で遊ぶ場所を選択することができます。好きな遊具を回することもあれば、1か所に取組む子どももいます。それぞれの遊具に、一人ひとりの子どもが取組む時に保育者が適切に支援することで、安全を確保しつつ、子どもの成長を促す活動を行ないました。

保育者は子どもたちの動きを見守り、その中で子どもたちの主体的な行動にどうかかわれば子どもの成長の手助けになるかの視点で、共通のねらいを持ち活動を行ないました。さらに、保育者はその様子を園内で振り返り話し合うことで、子どもたちとどうかかわるかを学び合い、保育の質の向上の機会としました。



遊戯室の遊具配置例、奥がクライミングウォール、手前が技巧台



クライミングウォールの状況、3歳児初めてのチャレンジ



他の保育園の3歳児が遊びに来てくれました。巧技台の様子。

②地域貢献活動

本園では、保育園としての地域貢献も活動目標しています。地域の子育て家庭に保育園に来ていただき、親子ふれあい運動、ベビーマッサージ、園庭解放などの子育て支援活動を毎月2回行っています。参加の方が0～1歳児など乳児の子どもが多いので、運動遊具の活用の機会は少ないですが、技巧台をつかった遊びを、2回行ないました。

近隣園交流活動として、他の保育園の園児を招いて、遊戯室でのクライミングウォールや技巧台活動を3回行いました。

3. その成果と評価

①クライミングウォールと技巧台あそび

クライミングウォールの活動を見てみると、一見腕の力で登っているように見えても、全身を使っています。特に指示や指導をしなくても、それぞれの子どもが自分の能力を目いっぱい使っていることがよくわかります。最初は登るだけ（実際は横に移動するが）から、より遠くのホールド（つかむでっぱり）にチャレンジするなど、自分で調整しています。そして、難しい場面を達成したときの喜ぶ姿も見るすることができます。

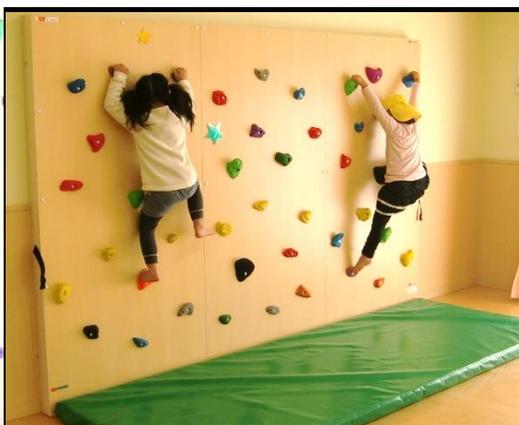
また、どのように進むと早いかな？難しいかな？などを、子ども同士で話し合い、競争している姿を見ることができます。また、順番や安全ルールを守ること、うまくできなくて泣く姿、励ます姿などもたくさん見ることができます。

技巧台でも同様の場面を見ることができますが、技巧台では、一つのやり方から別なやり方に遊びを変化させていきます。例えば、段ボールのトンネルなどを置くことで、それと技巧台を組み合わせ、中でジャンケンをするなどの新しい遊びに変化させています。

このように保育者が指示することなく、子どもたち自らが、クライミングウォールや技巧台あそびに没頭していく中で、創造力、判断力、忍耐力、協同性、仲間意識など子どもに大切な非認知的能力が育っていると思います。



クライミングウォール、体を目いっぱい伸ばしているのが良くわかる、5歳児



クライミングウォール、二人で競い合っている姿、5歳児

この遊びを見ている保育士は、安全に配慮しつつ、子どもの姿を感じ取って、どのようにかかわるかを考えます。そして、かかわった後の子どもの姿がどうであったか？他の保育士の行動はどうであったか？などを見ることができます。それを、保育同士で話し合う中で、保育の専門性が磨かれていくことを感じる事ができました。

②地域貢献活動

回数は少ないですが、クライミングウォールや技巧台はどこにでもある遊具ではないので、初めての子どもでも、当園の園児と同様にすぐに興味を示し、楽しく活動する姿を見ることができました。

4. 今後の課題と展望

①クライミングウォールと技巧台あそび

クライミングウォールや技巧台を使って自由に遊ぶ中で、体力面と精神面の両面を伸ばすことに有効であることが実感できました。子どもたちは、この遊びが大好きで今後も、おおいに活用したいと思います。

今後の発展として、専門家の意見なども聞きながら、難易度を変える、使い方を変える、遊び方を変える、遊具を増やすなどして、より興味を持ち、より楽しく変化する遊びにバージョンアップしていきたいと思います。

②地域貢献活動

地域の子育て家庭に保育園に来ていただく子育て支援活動や、近隣園交流活動として他の保育園の園児を招いた交流活動を行ないましたが、回数や参加者がまだ少ない状況です。開園から3年目を迎え、より多くの方に活用いただけるよう広報活動を行ないたいと思います。

このような活動をスタートにこの遊戯室が、子育て中の方に限らず、高齢の方や一般の方も気軽に集まっていただける地域の拠点となるような活動に発展させていきたいと考えています。

以上